

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「復活の信仰は、イースターの時期だけではない。クリスチャンがそれにより毎日生き、それにより最後に死ぬ信仰なのだ。」

(ウィリアム・バークレー)

A 「復活は、私たちの死後だけに関係している事柄ではない。今現在、どう生きているかに関わってくる。」

(ユージン・ピーターソン)

質問) キリストのよみがえりはなぜ大切なのですか？

答え) イエスのよみがえりが大切であることには、いくつかの理由があります。第一に、神ご自身の計り知れない力を証します。よみがえりを信じることは、神を信じることです。もし神が存在し、宇宙を創造され、宇宙を支配しておられるなら、神は死人をよみがえらせる力を持っておられます。もし神がそのような力を持っておられないのなら、信じ、礼拝するのに値する神ではありません。いのちを創造された神だけが、死んだあとにいのちをよみがえらせることができます。神だけが死そのものの恐ろしさを逆転させることができます。そして神だけが、とげである死と墓の勝利を取り除くことができます(1コリント15:54-55)。イエスを墓からよみがえらせることで、神はご自分がいのちと死の上に絶対の主権を持っておられることを私たちにもう一度示されるのです。

第二に、イエスのよみがえりは、人間がよみがえることの証しであって、それはキリスト教信仰の基本的な教義です。ほかのすべての宗教と違って、教祖が死を超越し、自分について来る者は同じようになると約束しているのはキリスト教だけです。ほかのすべての宗教は、人々と預言者によって始められ、彼らは最終的に墓に入りました。クリスチャンとして、私たちの神は人となられ、私たちの罪のために死なれ、3日目によみがえられたという事実は、私たちの慰めです。墓は、主を留めておくことはできませんでした。主は生きておられ、今日、天国で父なる神の右の座に座しておられます。

1コリント15章で、パウロはキリストのよみがえりの大切さを事細かに説明しています。コリントで死人のよみがえりを信じていない人々がいたので、この章でパウロは、もしよみがえりがなかったらどうなるか、という6つの悲惨な結果を挙げています。

1) キリストを宣べ伝えることはばかげている(14節)。2) キリストにある信仰は役に立たない(14節)。3) すべてよみがえりを証したり、説教している人たちはうそつきである(15節)。4) 罪から贖われる人はひとりもない(17節)。5) すべてキリストにあって眠った者たちは滅びたことになる(18節)。6) そしてクリスチャンはこの世で一番哀れな者となる(19節)。しかし、キリストは確かに死からよみがえり、「眠った者の初穂として死者の中からよみがえられ」たので(20節)、私たちも主に従ってよみがえるのです。

靈感された神のことばは、イエス・キリストが主のからだ(教会)のために来られる携拳のときに信者がよみがえれることを保証しています。そのような希望と確信が、パウロが1コリント15:55に書いているような偉大な勝利の歌へとつながるのです。「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

これらの断定的な節はどのようによみがえりの大切さと関係があるのでしょうか？パウロは答えます。「・・・あなたがたは自分たちの労苦が、主においてむだでないことを知っているのですから。」(58節)パウロは、私たちが新しいいのちによみがえることを知っているのです。キリストがそうされたのと同じように、キリストのための迫害や危険に耐えることができるのだということを思い起こさせてくれます。私たちは、歴史をとおして、喜んでこの地上のいのちをよみがえりによる永遠のいのちと引き換えた何千という殉教者たちの手本に従うことができるのです。

よみがえりは、ひとりひとりの信者にとって、勝利を得た栄光ある克服です。聖書によれば、イエス・キリストは死んで葬られ、3日目によみがえられました。そしてイエスは再び来られます！キリストにあって死んだ者はよみがえらせられ、主が来られるときに生きている者は変えられ、新しい、栄光のからだを受けるのです(1テサロニケ4:13-18)。なぜイエス・キリストのよみがえりが救いのために重要なのでしょうか？よみがえりは、神が私たちのためのイエスの犠牲を受け入れてくださったことを示しているからです。そのことが、神は私たちを死人の中からよみがえらせる力を持っておられることの証拠です。それは、キリストを信じた者たちが死んだままではなく、永遠のいのちによみがえれることを保証しています。これこそ私たちに与えられた、祝福の希望です！

Gotquestions.com 日本語

キリスト教の専門家によれば、復活を否定するにはいかなる理論であっても次の3つの歴史的事実との整合性が必要だと言う。イエスの遺体が安置されてから3日後に空の墓があったこと、十字架につけられてから約7週間、多くの場所で何百人もの人々に姿を現したこと、そして怯えていた使徒たちが処刑されるとしてもメシアの復活を宣言するほど大胆に変わる大きな出来事である。イエス・キリストの復活はキリスト教の根幹であり、それを信じることは信仰の基礎である。この出来事の信憑性を疑う者もいるが、歴史的事実として、こうした空の墓、数百人によるイエスの出現、弟子たちの大胆な変化が挙げられる。復活を否定する説明は難しく、復活はキリスト教の信仰の核心であり、その真実性は他の説明よりも強い証拠がある。

「弟子たちは、『キリストの復活、罪の告白とキリストに信仰を持つことだけに、真実がある』と宣誓している。弟子たちは、恐

ろしいまでの拷問にさらされた時にも、一様にこの教義を主張している。彼らの師匠は、悪人として死刑になったばかりであり、その教えは、世界中の宗教や哲学を覆すものであった。世界中のあらゆる法律や掟は、その教えに反しており、世界中が彼らの敵であった。どんなに当たり障りないように、平和裏に収めようとしても、この新しい信仰を伝える彼らを待っていたのは、侮辱、反対、罵倒、迫害、投獄、拷問、残酷な死であった。それでも、彼らは自分の信仰を必死に伝えようとした。彼らが耐え忍んだあらゆる困難は、落胆ではなく喜びを呼んだ。弟子たちが次々と悲惨な殉教を遂げ、生き残った者たちは迫害の只中に置かれた時にも、彼らは活力に満ち、その信念をさらに強くしていった。戦争中の軍の記録でも、このようにたゆまぬ英雄性、忍耐、勇気ある前向きな姿勢はほとんど見られない。彼らを落ち込ませ、悲しませる出来事は日常茶飯事であった。そうした状況の中で、彼らが自分たちの信仰の土台を、そして自分たちが主張していた真理と事実を、もう一度注意深く見直し、考え直す理由はいくらでもあったのである。それでも、彼らの信念は変わらなかった。イエスが実際に死からよみがえったのでなければ、そしてそれを事実として彼らがはっきりと知っていなければ、これだけの確信と勇気を持って、イエスへの信仰を主張できたはずがない。」(サイモン・グリーンリーフ)

※サイモン・グリーンリーフ教授は、もともと復活がただの伝説としか考えていなかったが、復活の歴史的事実だと知って考えを逆転させた。グリーンリーフ教授は世界で先に立つ法律学者の一人で、ハーバードのロースクール(法科大学院)を有名にした人物である。彼は3巻にわたる法律の名作『証拠についての法規論文』を書き、それは『訴訟手続きの全文学における最も偉大な一つの権限』と呼ばれている。米国の司法システムは今日でもなお、グリーンリーフ教授によって確立された証拠の規則に頼っている。

「証拠というものが何であるかを私は熟知

している。そして、キリストの復活に関する証拠ほど、いまだに崩されたことのない証拠はないと言える。」

(ジョン・シングルトン・コプリー 英国屈指の法学者、大法官を3度務める)

「私は長年、他時代の歴史を研究し、それを記した人々の証拠を調査・考量することに慣れてきたが、全人類の歴史において、公平な探求者の理解にとって、キリストが死んで再びよみがえったという神が私たちに与えてくださった偉大な兆しほど、あらゆる種類のより優れた、より完全な証拠によって証明されている事実は他に一つも知らない。」

(トマス・アーノルド オックスフォード大学近代史教授)

「私は歴史家であることを自認している。古典に対する私の専門的アプローチは歴史的なものである。そして、キリストの生涯、死、そして復活の証拠は、古代史のほとんどの事実よりも優れた裏付けがあると言い切れる。」

(E・M・ブロックロック オークランド大学古典学教授)

「復活が事実であることを、私は知っています。ウォーターゲート事件がそれを証明してくれました。なぜそうなのか、ですって？ それは、12人の人が、イエスが死からよみがえったと証言し、それからその真実を40年間宣言し、一度もそれを否定しなかったからです。全員がむち打たれ、拷問にかけられ、石を投げられ、獄に入られました。復活が真実でなかったとしたら、そんなことには耐えられなかったでしょう。ウォーターゲート事件は世界で最も権力を持つ12人の男を巻き込みました。しかし、彼らは3週間ですら嘘をつき続けられませんでした。12使徒が40年もの間、嘘をつき続けたというのですか？ そんなことは絶対にあり得ません。」(チャールズ・コルソン)

※チャールズ・コルソンは、アメリカのキリスト教伝道者・評論家・作家。1969

年から1973年までリチャード・ニクソン大統領の特別補佐官を務め、ウォーターゲート事件を発端とする一連の事件で有罪となり収監されたことで知られる。

「弟子たちは単に復活を信じただけでなく、それが事実か虚構かを知っていました。もしそれが嘘だと知っていたら、彼らは決してそのために命を犠牲にしようとはしなかったでしょう。誰も、自分が偽りだと知っていることのために進んで死ぬことはありません。彼らが死に至るまで復活を宣べ伝えたのは、ただ一つの理由からです。それは、それが真実だと知っていたからです。そして、私が調べた歴史的資料に基づいて、私は彼らが正しかったと確信するようになりました。」(リー・ストロベル)

※リー・ストロベルはイェール大学ロースクールで教育を受け、シカゴ・トリビューン紙で法律編集者として働き、1981年までは無神論者だった。現在はキリスト教弁証者。

「イエスが死から復活したという証拠は、ユリウス・カエサルが実在したという証拠や、アレクサンドロス大王が33歳で亡くなったという証拠よりも多く存在する。」

(ビリー・グラハム)

「復活は、古代であろうと現代であろうと、いかなる歴史に記録された出来事よりも、はるかに確かな証拠によって裏付けられている事実である。」

(チャールズ・スポルジョン) Ω

<お知らせ Announcement>

★4月12日(日) 聖餐式と4月の誕生会があります。

★4月19日(日) 午後はキッズによる復活記念スキットがあります。

MGFはキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会[マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)]はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです(エペソ1:23)。「あなたがた[MGF]は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです(コロサイ2:10)。